

### 第3回日仏規制当局間会合等の結果概要について

平成27年9月16日  
原子力規制庁

- 平成27年9月9日・10日の2日間、原子力規制委員会とフランス原子力安全規制機関（ASN）の日仏二国の規制当局が実施する、第3回日仏規制当局間会合をフランス・パリで開催した。
- 本会合は、原子力規制委員会とASNとの間で取り交わされた、協力文書（実施取極）及び同取極に関する覚書に基づいて、双方持ち回りで年1回開催することとしている会合である（第1回会合は平成25年9月にフランス・パリで、第2回会合は平成26年10月に東京で開催）。
- 今回は、原子力規制委員会から田中知委員、安井技術総括審議官他が、ASNからシュヴェ委員長及びジャメ委員、ニエル長官らが出席し、双方の規制当局の最新動向、福島第一原子力発電所の現状、放射性廃棄物の規制の状況、緊急作業時の被ばくに関する規制の状況等の幅広い議題について、有意義な意見交換が行われた。
- 本会合の後、フランス放射性廃棄物管理庁（ANDRA）が運営するオーブ廃棄物貯蔵センターを訪問し、低レベル放射性廃棄物の管理状況について説明を受けた。さらに、ANDRAが運営するビュール地下研究所を訪問し、高レベル放射性廃棄物の粘土層での地層処分について説明を受けた。
- 本会合を通じて、日仏両国の規制当局は、今後とも、原子力発電所の継続的な安全性向上に向けての情報交換を行っていくこと、来年は東京で第4回会合を開催することで合意した。
- また、国際アドバイザーとの意見交換として、7日には米国・ワシントンにおいてリチャード・A・メザーブ氏と、8日にはフランス・パリにおいて、アンドレ・クロード・ラコスト氏と会談した。